

平成 28 年度府立野崎高等学校第 2 回学校協議会議事録

日時：平成 28 年 11 月 25 日(金)

15:20~17:00

於：本校会議室

司会：榊 教頭

記録：外川

春名

前田

松原

【次第】

- 1、校長挨拶
- 2、事務局より
- 3、協議・意見交換
- 4、会長より
- 5、事務局より

1. 校長挨拶

- ・学校協議会に出席して頂いたことへのお礼
- ・本校の様子について（2 学期の行事を中心に）
 - ① 体育大会・・・応援団中心に衣装やダンスの創意工夫が見られ、生徒主導の大会であった。
 - ② 文化祭・・・劇のセットが充実していた。
 - ③ 保護者懇談・・・生徒の卒業・進級への新たなる気持ちの切り替えになった。
 - ④ チャレンジ野崎（中学生体験入学）・・・開会式でダンス同好会によるダンス披露、フォークソング部によるバンド演奏。生徒会によるアシスタント。
 - ⑤ 中学生進路予備調査・・・来年度、本校を希望している中学生の見込み数は 10 月の段階で 240 名に達していない。更に広報の充実を図る。
 - ⑥ 授業見学について・・・来週からテストなので、復習や自習の授業形式があった。

2. 事務局より

はじめに 榑 教頭より

- ① 本日の欠席者の連絡
- ② 事務局補佐の紹介

ア 資料について 榑 教頭より

- ・配布資料の確認

イ 本年度学校経営計画 取り組み進捗状況について

- ① 村田 校長より (別紙0 参照)

めざす学校像「生徒一人ひとりを大切にする学校」により、進路実現、安心、安全、地域連携の推進のために取り組んでいる。舞台設備の整備は今年度の文化祭に間に合わなかった。生徒一人ひとりにスポットライトが当たる舞台作りにより、生徒の自尊感情の向上をめざす。1F職員室横の自習スペースの充実、若い教員によるプロジェクターやWiFiを活用した授業改善の取り組みなどにより、生徒の基礎学力向上につながっている。本校では若い教員が多くて経験不足な面があり、意図的な研修も含めて多くの研修を行っている。その中の一つでもあり、将来学校を支えるミドルリーダー育成のための診断支援研修もしているが、中には個人的に学校外の研修に積極的に参加している教員もいる。

- ② 首席より (別紙1 参照)「ミドルリーダーが担う学校づくり」

以前に比べると学校は落ち着いてきている。生徒一人ひとりを大切にしてきたからである。今後も学力の向上や、生活環境に支援が必要な場合など、個々の生徒に合わせた支援をしていく。

- ③ 生徒指導主事より (別紙2 参照)「生徒指導部 重点目標」

昨年度と比較して指導案件は減少している。また、三学年で連携し統一した指導を行った。他に生徒の取り組みとして、Osaka スマホサミット2016への生徒会の参加、部活動キャプテン会議や体育大会での係り活動・朝の挨拶運動などが見られ、学校の活性化につながっている。

- ④ 進路指導主事より (別紙3 参照)「就職・進学」

生徒が主体的に進路の選択をしていくことができるよう、地域の企業家の方々や、ハローワーク、大学等と連携し、自尊感情を高めていく取り組みを行っている。

ウ 平成29年度使用教科書の報告 教務主任より

- ① 教科書の説明 (別紙4 参照)

生徒のニーズに応えるため、多くの学校設定科目を開講している。

② 来年度入試について (別紙4裏面 参照)

- ・アドミッションポリシーの起用
- ・入学者選択における配点、外部検定の活用について
来年度の内申書は中学2, 3年生、以降は中学1~3年の内申書による。

エ 学校経営推進費の活用計画について 首席より

(プロジェクトによる説明)

「Light Up! 作戦」を打ち出し、生徒一人ひとりがスポットライトを浴びて自尊感情を高めることをねらう。生徒が一人ひとり主役になれるようにしていく。また生徒が、こんなことができる、というものを高校生活で一つでも持つことができれば、今後の生徒自身を支える上でも重要である。更に教員による他校への文化祭見学ツアーにより視察をして教員も準備万端にしている。例えば文化祭の出し物で英語の歌をステージで歌ったり、クラスの生徒が踊ったりした。他には演劇でコメディイをするクラスや、里山で竹を切って会場設営をしたクラスもあり、大いに文化祭を盛り上げた。

オ Jump Up!PTについて (別紙5 参照) 首席より

① パッケージ研修 (第1回目の報告)

組織的な授業改善をめざすために行っていて、全体での研修や数学科での研究授業を実施する。今後は全教科の授業における『野崎スタンダード』を確立する。12月に第2回目の研究授業も予定している。

② 診断支援研修

ミドルリーダーの育成と学校の底力向上をめざし、教員の意識・自覚を促す。学校の課題を明らかにし、その課題を解決する実践を通して、来年度の学校経営計画の作成に向けた提案を行うことが目標である。教員がそれぞれの意見を出し合い、共有する研修である。具体的な流れとしては最初に課題を洗い出し、2回目で課題を整理・集約、最終的にまとめていく流れで、年に4回実施する予定。今年度は「総合的な学習の時間」「授業改善」「生徒主体の取り組み」が課題である。

カ 授業改善の取り組みについて (別紙6 参照) 榑 教頭より

補足説明

- ・アンケートは教科・授業形態・学年別
- ・過去2年間のデータも記載しており、比較ができる
- ・4段階評価を100点満点に置き換えて、教員には提示している
- ・アンケートの委託先は東京ソフト株式会社 分析システムFを使用

7月末日に実施した授業アンケートから読み取れること

- ①全般的に数値が下がった、満足度、達成度が前年度と比較して4~3.5ポイント下がった。
- ↓

学校全体での授業改善の取り組みや全教室への ICT 機器の整備により、生徒の理解力は向上してきた分、更なる授業の質向上が求められている。

②選択科目、主に 3 年次の「ビジネス文書」は生徒のニーズにも合致しており、生徒は満足感や達成感を得ている。これは生徒の学習意欲向上が要因として考えられるからであろう。

③ティーム・ティーチングについては、技術的なことを修得する授業形態において、アシスタントがいることにより、生徒は心強く感じていたと思われる。

④39 期生に比べると 40、41 期生からの評価は低い。



進路を意識する生徒や学習意欲が高い生徒が増えたからだと考えられるが、今後の学校教育自己診断アンケートなどの結果も含めて、検証していく。

キ 広報活動・地域連携について 首席より（学校紹介 DVD 上映、別紙 7、8 参照）
活動の紹介

①野崎 Revolution には里山ボランティアクラブの生徒だけでなく、他の生徒も参加して 60 名も集まった。

②大東キャンドルナイトは 12 月 3 日（土）に住道駅前で行われ、学校で作った 700 個のキャンドルを設置予定。

③大東市学びあう授業づくり公開研究大会では、本校からも複数の教員が参加した。

④広報の力により、学校説明会にも中学生が積極的に参加していて、先日のチャレンジ野崎のアンケート結果にも反映されていた。チャレンジ野崎では開会式で「生徒会長のあいさつ」「ライブ」「ダンス」「校舎の案内映像」などがあり、その後に各授業の体験があった。体験授業を振り返ると音楽ではギター、家庭科ではおにぎらず、情報では名刺作り、化学では液体窒素の実演、国語では百人一首、体育ではスポンジテニスなどがあった。体験授業の後にはクラブ見学を行った。授業やクラブ見学においても生徒会の生徒が中学生のサポート役をつとめた。

3. 協議・意見交換 4. 会長より

委員：授業を初めてみた。学校が生徒主体で取り組めるようにしている。先生は大変だろうが、生徒は達成感を得られただろう。体育大会の応援合戦を見れなかったのは残念である。

（質問）クラブについて、加入率や特に活発なクラブと特色あるクラブを教えてほしい。
生徒指導部：クラブの加入率は 35%。3 年生が引退し心配なクラブもあるが、文化系ではフォークソング部や茶道部が頑張っている。運動系では男子バスケットボール部・サッカー・野球・卓球部も少ない人数だが活動をしている。今年度一番変化があったのは硬式テニス部。指導できる教員が増えたのが大きい。ラグビー部は合同チームで頑張っていて、少人数校の西日本選抜に選ばれた生徒がいる。

委員：地域とのつながりを大事にする学校で、先生たちが地域行事に顔を出してきっかけを作っていることもありがたい。

委員：資料の多さ、それだけ多くの取り組みをしているのだと分かる。ここ数年で生徒の質が変わった。いまどきの普通の子どもが増えたようで、学校の雰囲気も明るくなった。安心して生徒を見ていられる。

会長：今後、遅刻指導などはいかにして保護者を巻き込むかだ。学校の立地など環境にも恵まれている。

委員：本校の進路指導とも連携が取れていてキャンパス見学や面接、小論文対策講座などもして、交流をさせてもらっている。

会長：授業アンケートについて全体的にそんなに下がったのか。1回目より、2回目までこまで高くなるかに期待すべきだ。それから比較をすべきだ。

先生たちの体調は大丈夫か。生徒の雰囲気が元気で明るければ、先生がしっかり指導していることが分かる。「課題を解決する」という、発想を転換するのはどうだろうか。課題は元々マイナスだから解決しても0にしかならないので、強み特色を伸ばしてプラスを増やしてほしい。

委員：学校の判断基準は偏差値ではない。野崎の学校を選ぶ基準は「人を作る野崎」。しんどい経験をされている先生が多いと思うのでその経験や生徒の「情」や「人懐っこさ」を売りとしてアピールしてほしい。それで偏差値以上の結果を出してほしい。

5. 事務局より 教頭：榊より

次回、第3回は2月23日（木）を予定とする。